



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2022年3月期 決算 説明資料

2022年5月25日

<目次>

- 事業分野
- 2022年3月期 決算概要
- 2023年3月期 今期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

事業分野（BF）

社会の安全と発展に、かけがえのない一流のソフトウェア会社となる

社会の安全と発展に貢献する分野で、リアルタイム技術が必要とされる分野が当社の事業分野です。社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、モバイルネットワーク、インターネットといった新しい事業分野が加わりました。時代の変化とともに、当社の事業分野は拡大しています。

社会の安全（社会インフラ）

社会の発展（夢の追求）

社会基盤システム

高度交通システム、防衛、医療、環境エネルギー、官公庁向けシステムなど社会公共性の高い分野のシステムを開発



宇宙先端システム

科学衛星や惑星探査機の搭載システムなど宇宙天文分野、ロボットやAIなど先端分野のソフトウェアを開発



4つの
ビジネスフィールド
(BF・事業分野)

モバイルネットワーク

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発



インターネット

非接触IC搭載ソフトウェア、IoT関連技術、AR・VR・MRなどのリアリティ技術、クラウドシステムなどを開発



リアルタイム技術が得意とする分野

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発しています。

高度交通システム ETC/VICS (渋滞情報)



位置情報サービス (ロードサービス・緊急通報)



緊急医療支援システム



医薬品・医療機器 安全対策支援システム



防衛・官公庁向け システム



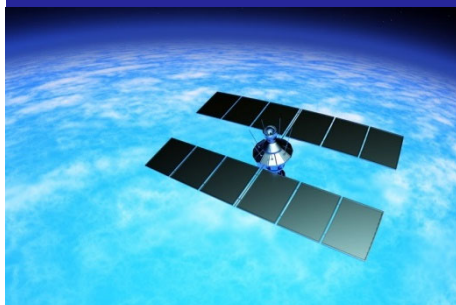
環境エネルギー マネジメントシステム



人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発と、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発をしています。

衛星搭載システム
(ひので、はやぶさ2など)



スペースデブリ除去衛星
(フライト制御ソフト開発)



国際宇宙ステーション
「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム
(すばる望遠鏡など)



ロボット標準化技術
(RTモデルウェア、ROS)



車両自動走行



自動制御ソフトウェア
(船舶、ドローン、トラクター)



研究機関向けシステム
(NICT、JAXA、大学など)



次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT 関連システム、MR など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発しています。

モバイルデバイス搭載機能



非接触 IC 搭載ソフトウェア



キャッシュレス モバイル決済端末



車載インフォテインメント ソフトウェア



IoT 暑熱作業リスク管理システム



IoT 海中資源管理



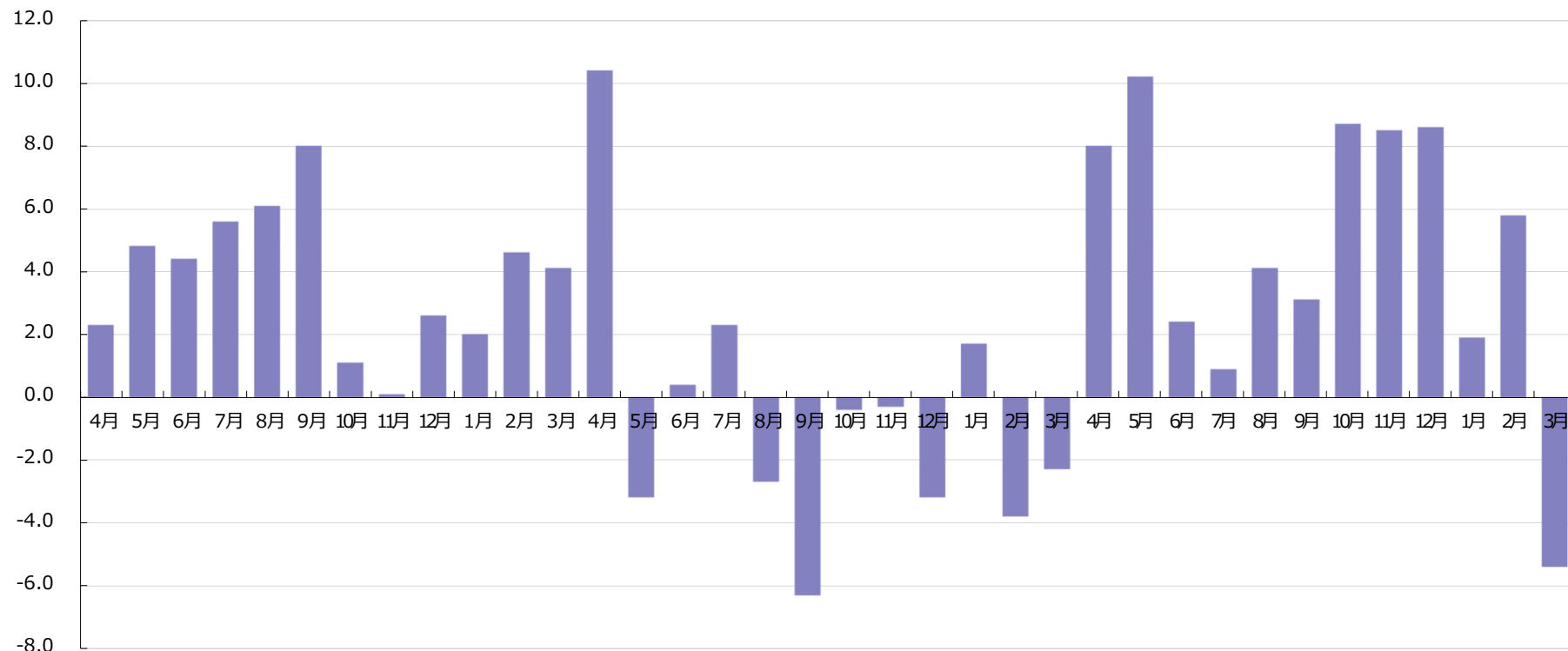
クラボウ Smartfit for work

2022年3月期 決算概要

2022年3月期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2021年4月以降の前年同月比の月別売上高は、前年の新型コロナウイルス感染症による影響の反動で増加または前年同月並みとなっているが、3月は減少した。

2022年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で5期連続の増収増益

売上高	: <u>6,560</u> 百万円	前期比	0.5%増		
営業利益	: <u>1,062</u> 百万円	前期比	5.1%増	利益率	16.2%
経常利益	: <u>1,107</u> 百万円	前期比	5.0%増	利益率	16.9%
当期純利益	: <u>780</u> 百万円	前期比	7.2%増		

受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は7期連続の増加

受注高	: <u>7,193</u> 百万円	前期比	6.7%増
受注残高	: <u>3,197</u> 百万円	前期比	24.7%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 移動体通信事業者向けの開発が大幅に減少し、官公庁向けの開発やインターネット分野の民間企業向けの開発が増加するなど、需要構造の変化が継続した。
- 上期は主要顧客である移動体通信事業者向けの開発が予想を上回って減少したため、減収減益となったが、下期以降に業績が回復し、通期で増収増益となった。
- 商談状況も下期以降に好転し、受注高は通期で過去最高となった。

損益計算書

	2021年3月期 (百万円)	2022年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	6,525	6,560	100.5	6,700	97.9
売上原価	4,676	4,585	98.0	4,720	97.1
売上総利益	1,849	1,974	106.8	1,980	99.7
販売管理費	838	912	108.9	930	98.1
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,062 (16.2%)	105.1	1,050 (15.7%)	101.2
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,107 (16.9%)	105.0	1,090 (16.3%)	101.6
当期純利益	727	780	107.2	750	104.0

売上原価 外注費が減少（外注費 19.5億円、前期比5.5%減／売上高外注比率29.9%、前期31.8%）

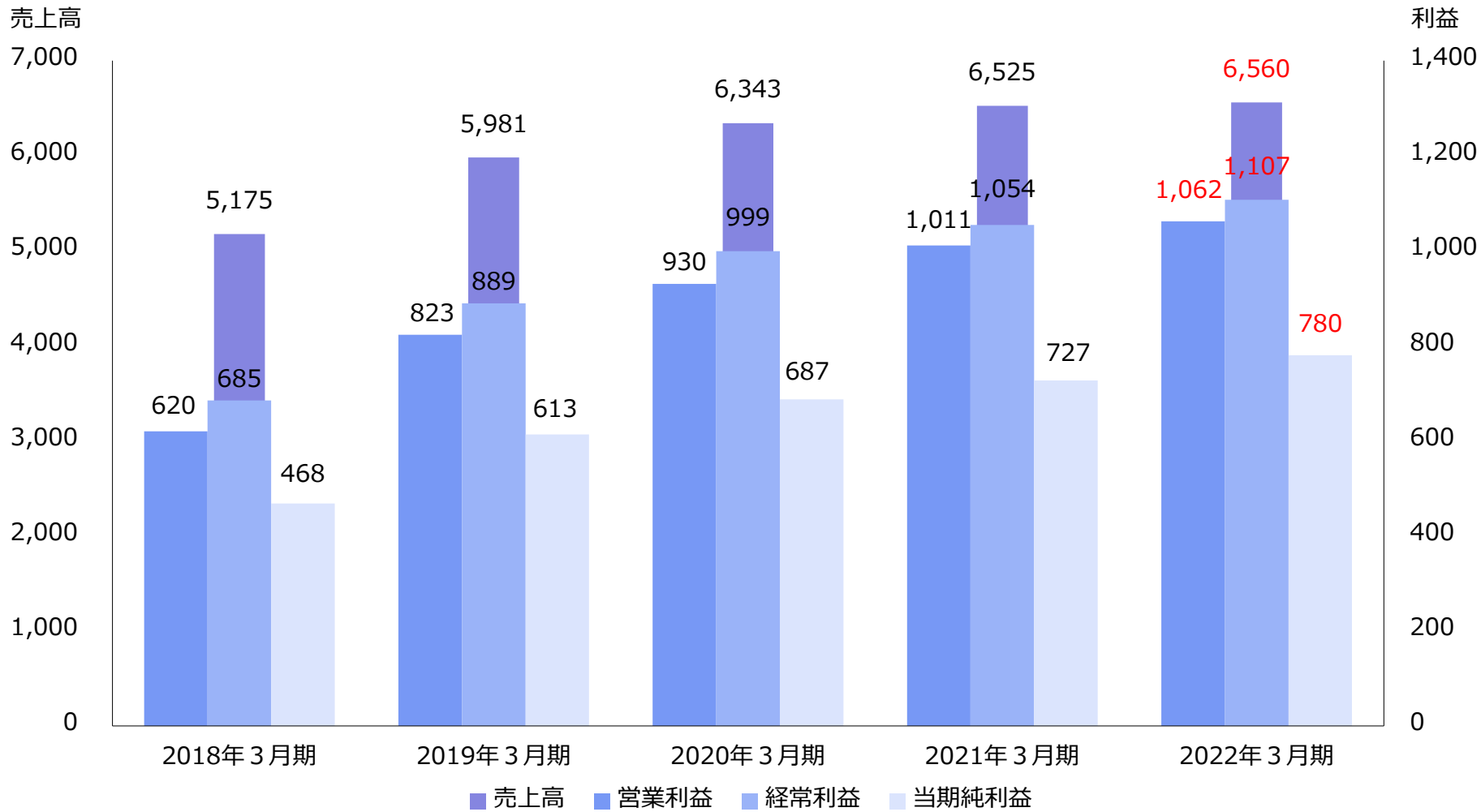
販売管理費 新入社員の増加、それに伴う教育体制の強化により労務費が増加、また研究開発費も増加（研究開発費は53百万円で、前期比で10.4%増加）

当期純利益 新入社員の増加による税額控除で法人税負担率が下がり、営業利益・経常利益より増加幅が拡大

決算業績推移（過去5年）

5期連続の増収増益で、売上高、利益ともに過去最高

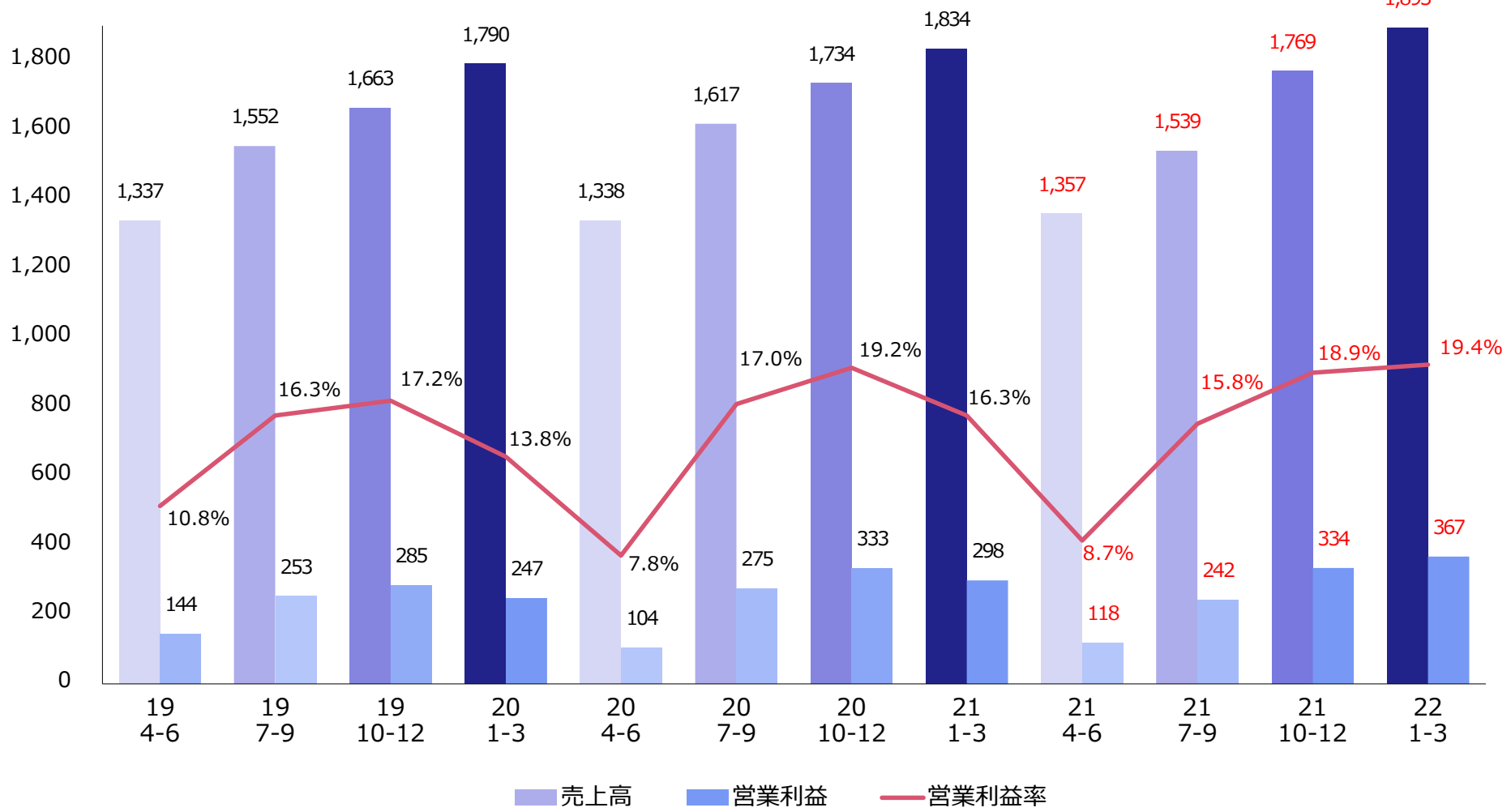
(単位：百万円)



四半期業績推移 (P L)

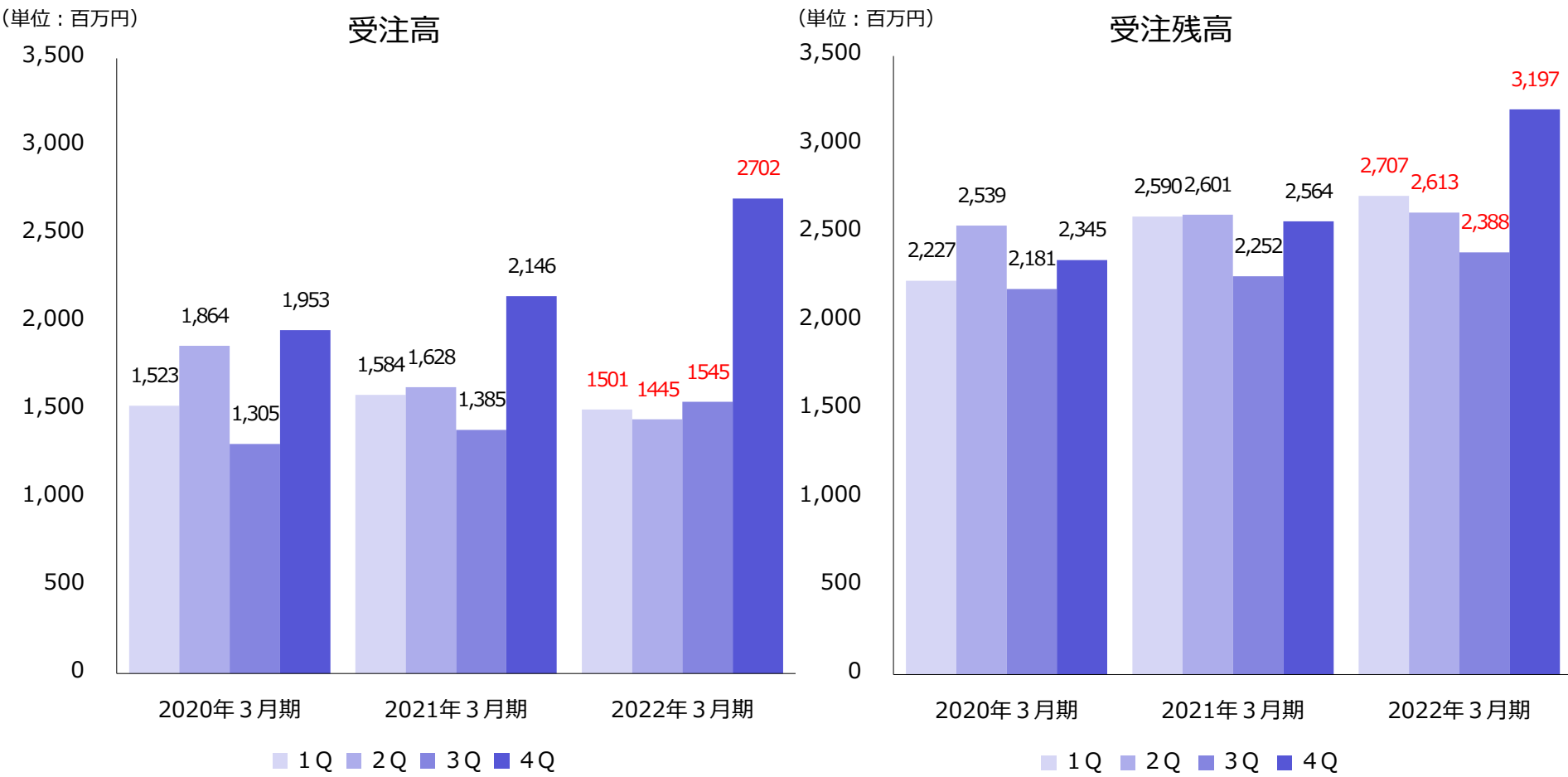
今期は対前期比で第2四半期以外は増収増益

(単位：百万円)



四半期業績推移（受注状況）

受注高は第3・第4四半期で過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高



B F 別の状況

インターネットBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2021年3月期		2022年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	979	15.0	641	9.8	65.5
インターネット	1,042	16.0	1,232	18.8	118.2
社会基盤システム	1,987	30.4	2,218	33.8	111.6
宇宙先端システム	2,516	38.6	2,467	37.6	98.1
合計	6,525	100.0	6,560	100.0	100.5

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き堅調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件は堅調だったが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

B F 別売上構成比

社会基盤システムB FとインターネットB Fが拡大

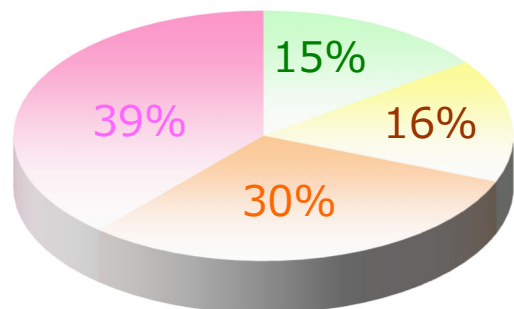
宇宙先端システムB F

車両自動走行の研究開発案件は堅調だったが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

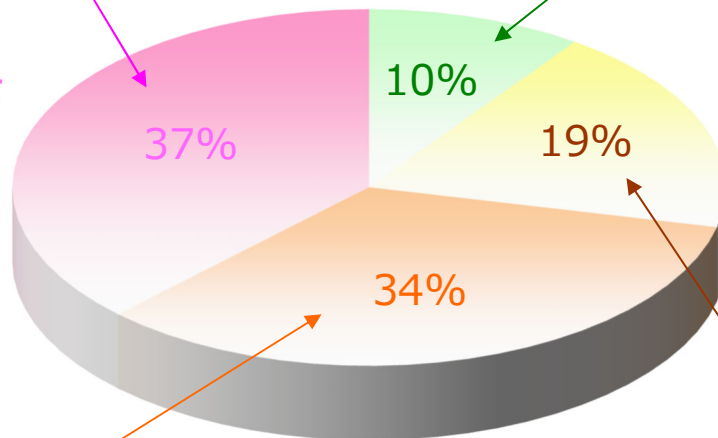
モバイルネットワークB F

移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少

需要構造の変化に応じて
柔軟に対応



2021年3月期



2022年3月期

社会基盤システムB F

官公庁向けが開発が引き続き堅調

インターネットB F

民間企業向けが開発が増加

ロボットビジネスの状況

実績 (2022年3月期 売上高約 1,662百万円)

← 前年同期約 1,712百万円 ← 前々年同期約 1,410百万円)

車両自動走行は前期並み、サービスロボットの研究開発案件は大型案件が終了し減少

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調
⇒ 但し、車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件は計画変動により減少
- サービスロボットの研究開発案件は、大手自動車、重工、機械、電機、建築、国の研究機関などが堅調だが、通信事業者向けの大型案件が前期に終了したことにより減少
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボット、農業など広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向は継続

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

B F 別受注状況

社会基盤システム B F が大幅に増加

ビジネスフィールド	2021年3月期		2022年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	839	159	728	86.7	246	154.1
インターネット	1,116	367	1,156	103.6	290	79.2
社会基盤システム	2,282	1,455	2,766	121.2	2,004	137.6
宇宙先端システム	2,506	581	2,543	101.5	656	113.0
合計	6,744	2,564	7,193	106.7	3,197	124.7

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,639百万円、前期(2,062百万円)と比較し28.0%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加したため、受注高は増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が増加したため、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が堅調で、受注高は増加

期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2021年3月末日	2022年3月末日	増減
流動資産	6,159	6,652	492
固定資産	1,775	1,772	▲2
流動負債	1,220	1,195	▲25
固定負債	138	138	0
純資産	6,575	7,090	515
総資産	7,935	8,425	489
自己資本比率	82.9%	84.2%	1.3%
流動比率	504.6%	556.5%	51.9%
固定比率	27.0%	25.0%	▲2.0%

流動資産 現金及び預金、売上債権の増加などによる増加

固定資産 投資有価証券の償還による減少などによる減少

流動負債 買掛金、未払消費税等の減少などによる減少

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲52	642	695
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲40	28	69
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲423	▲290	132
現金及び同等物の増減額	▲515	380	896
現金及び同等物期末残高	2,853	3,234	380

営業キャッシュ・フロー

売上債権が大幅に減少したことなどによる支出減

投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の償還などによる収入増

財務キャッシュ・フロー

配当金の支払額の減少による支出減

(2021年3月期は記念配当の支出があったことによる)

2023年3月期 今期業績見通し

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」今期の特徴は2点

- 1 社完結の研究開発以外に、大学や国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを積極的に推進します。
- MR（Mixed Reality：現実空間と仮想空間を融合させ、相互にリアルタイムで影響し合う空間を構築する技術）の研究を進めます。

「データサイエンス」

- 情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案します。
- 技術だけではなく、その土台となるドメイン知識やビジネススキルを身に着け、お客様の懐に深く入り込み、お客様ビジネスに貢献します。

「人材育成」

- AI、セキュリティ、データサイエンスを中心に技術教育を強化します。
- ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化します。

2023年3月期業績見通し

成長への投資を優先、利益は微増の計画

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,560	6,950	105.9
売上原価	4,585	4,890	106.6
売上総利益	1,974	2,060	104.3
販売管理費	912	990	108.5
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,070 (15.4%)	100.7
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,130 (16.3%)	102.1
当期純利益	780	785	100.6

売上高 受注残高が前期を上回っているため、前期比約6%増の計画

売上原価 社員数増加による人件費の増加、イノベーション促進のための投資（増床、設備投資）により増加を見込む

販売管理費 研究開発への投資、増床による家賃の増加などを見込む

営業外損益 国の研究機関からの受託研究による補助金収入により増加を見込む

当期純利益 今期適用のあった税額控除がない前提で、微増を見込む

2023年3月期B F別業績見通し

モバイルネットワークB F、社会基盤システムB F、宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系などの開発が回復基調となり、増加を見込む	➡
インターネット	非接触 I C を利用した行政の電子化に関する開発が期待できるが、他の B F との人員配分の最適化により、減少を見込む	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加を見込む	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発も堅調に推移し、増加を見込む	➡

注力分野の状況

(IoT・AI・ロボット)

注力分野 | IoT・AI・ロボット

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」

ユビキタス (Ubiquitous)

身の回りの全てのものにコンピュータを埋め込んでネットワークに接続することで、私たちの生活を安全で安心、快適なものにするという概念

IoT (Internet of Things)

あらゆるモノがインターネットにつながるIoTは、技術の進歩によりユビキタスが具現化したもの



ユビキタス・IoT (Internet of Things) の基盤技術は
リアルタイム技術

重点テーマ

IoT ユビキタスを具現化した技術	AI (人工知能) ユビキタスのキーテクノロジー	ロボット ユビキタスの究極の端末
-----------------------------	------------------------------------	----------------------------

注目技術

MR (Mixed Reality)	エッジコンピューティング
--------------------	--------------

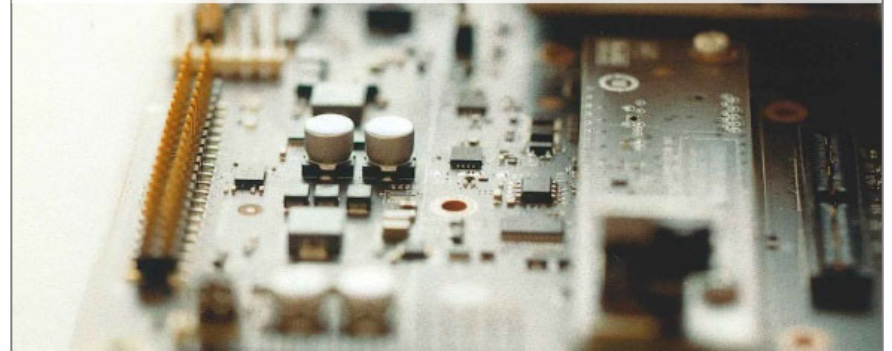
注目技術：エッジコンピューティング

ロボット+AI



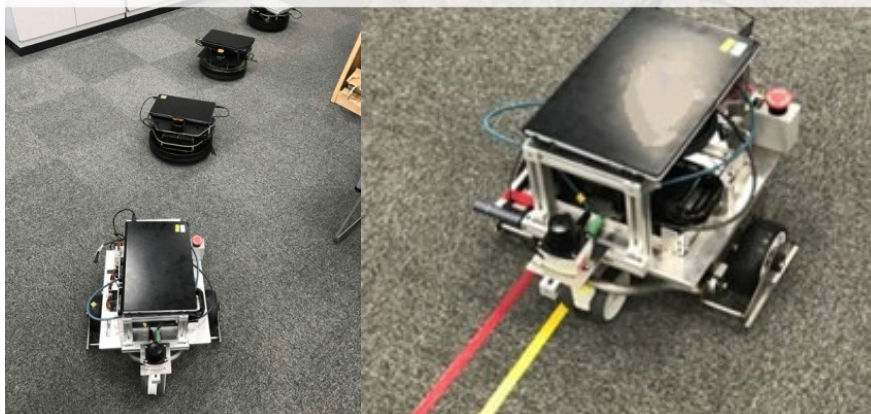
ロボット+知能処理

知能処理の回路化 (FPGA) とロボットへの適用
(九州工業大学共同研究)



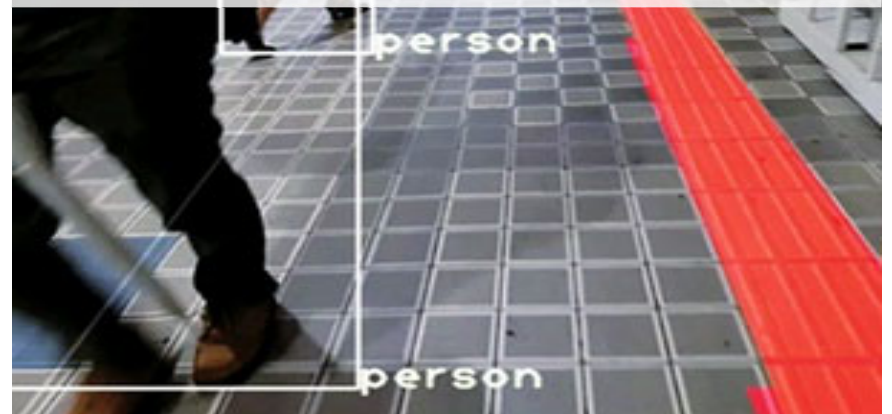
ロボット+自律移動

屋内自律移動ロボットソフトウェア「Rtino」



ロボット+IoT

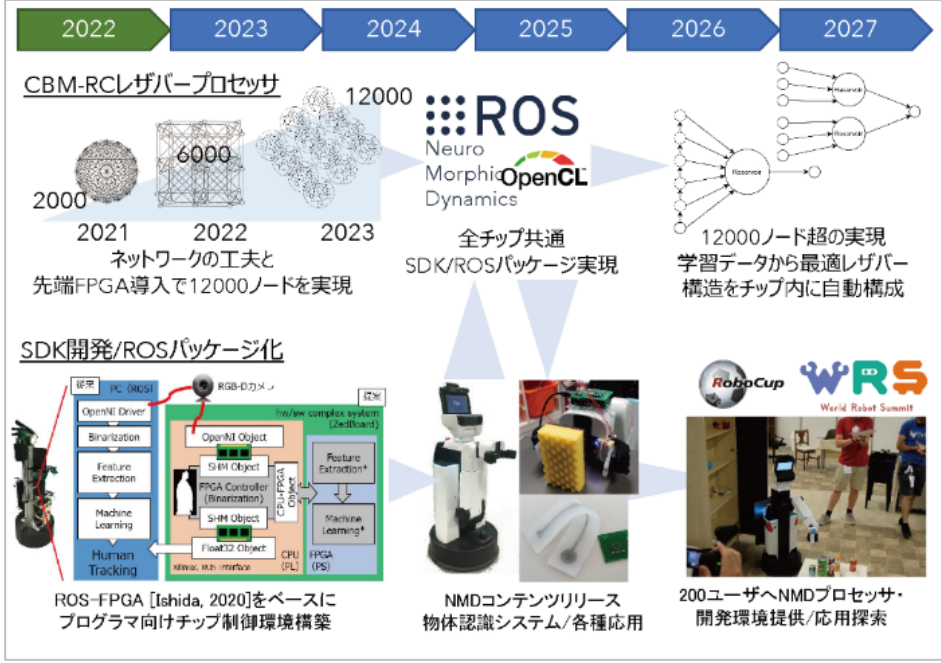
コンピュータビジョンソフトウェア「Rtrilo」



注目技術：エッジコンピューティング

「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」（NEDO公募事業）

人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ（エッジAIチップ）を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野に応用し、実用化を目指します。また、本プロジェクトの成果となるエッジAIチップを実用化に繋げるために、ソフトウェア開発環境の構築にも取り組みます。



研究テーマ

ニューロモルフィックダイナミクスに基づく超低電力エッジAIチップの研究開発とその応用展開

プロジェクト体制（提案時）

- 代表事業者：国立大学法人九州工業大学
 共同提案者：株式会社日立製作所
 株式会社セック
 株式会社フローディア
 株式会社アイヴィス
 国立大学法人大阪大学

2022年4月25日 当社ニュースリリース
https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220422526036/pdfFile.pdf

注目技術：エッジコンピューティング

技術解説書「高位合成によるFPGA回路設計」を執筆

ソフトウェア技術者向けとしては初のFPGA技術解説書である「高位合成によるFPGA回路設計」を、九州工業大学、株式会社アイヴィスと共同で執筆しました。（2022年3月1日：森北出版から出版）



（2022年2月28日 当社ニュースリリースより引用）

FPGAは省電力で高性能な集積回路で、ロボットや自動車などで智能処理を実現するエッジデバイスとして注目されています。一方で、FPGAに関するソフトウェア技術者向けの情報は少なく、FPGAに対応できるソフトウェア技術者の育成が課題となっています。

本書は、当社が2017年から九州工業大学などと進めてきた共同研究で得た成果を元に、FPGAについてソフトウェア技術者向けに丁寧に解説したものです。FPGAに初めて触れる技術者でも、基礎から無理なく、実際に手を動かしながら学べるように構成しています。

本書をきっかけに、多くのソフトウェア技術者に、FPGAの可能性を体感していただきたいと考えています。当社は今後も、FPGAに関する研究開発を推進し、エッジデバイスとしてのFPGAの普及に取り組みます。

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-9126254554799037514.html>

注目技術：Mixed Reality（複合現実）

Mixed Realityとは、現実世界とデジタル世界の境界をなくし、現実世界からデジタル世界に直接アクセスすることができるようにする技術です。今話題のメタバース（オンライン上に構築された、人が活動できる仮想空間）の実現に欠かせない技術として注目されており、当社でもMR関連の開発案件が増加しています。

当社は2017年よりJAXAとの共同研究でMRの研究開発をスタートし、2018年には「Microsoft Mixed Realityパートナープログラム」のパートナー認定を取得しました。蓄積した研究開発成果とマイクロソフト社とのアライアンスで、MRを核としたビジネスを推進していきます。



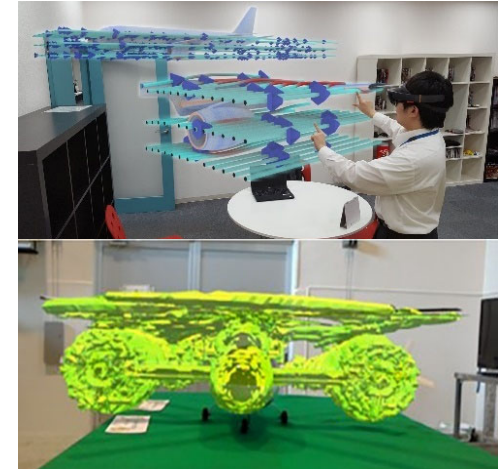
注目技術：Mixed Reality（複合現実）

研究開発（JAXAとの共同研究）

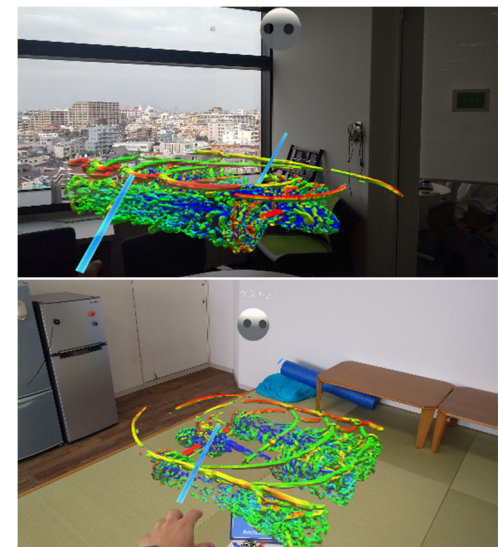
- **数値シミュレーション結果のMRによる可視化**
次世代の宇宙機、航空機設計に必要な数値シミュレーション結果や研究知見など様々な研究成果を、MR技術を用いて装着デバイスに連鎖的に投影することで、研究スタイルの変革を目指すと共に、次世代可視化技術の可能性を検証しています。
- **遠隔地拠点間の3Dデータ共有**
遠隔地の拠点間で仮想的に3Dデータなどの情報を仮想的な空間上で共有するための技術など、製造業や建設業といった様々なユーザに活用いただける技術研究を推進しています。

開発事例

- **MR作業支援システム**
整備工場における部品交換の手順や作業方法を、MRデバイスを通して整備対象に投影することで、作業漏れを防止し、作業を効率化する支援システムを開発しました。
- **教育支援システム**
大型機器の機構や動作原理を学ぶ技術研修で、CADデータを3D化してMRデバイス上に投影し、学習を支援するシステムを開発しました。
- **MRユーザビリティ検証**
複数のMRデバイスを用いて、ハンドトラッキングの操作性や現実空間の検知性能など、様々な観点で比較検証し、MRの実践導入に向けたUI/UXの検討を行いました。



数値シミュレーション結果のMRによる可視化



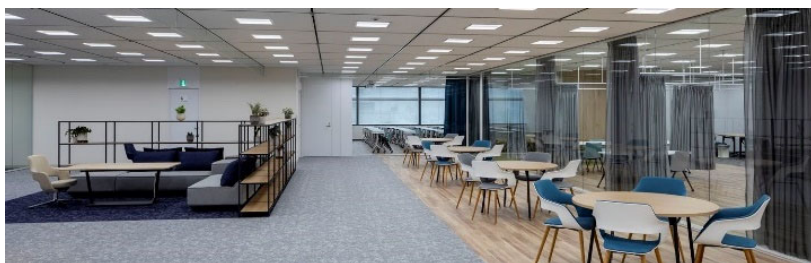
遠隔地拠点間のMRによる3Dデータ共有

新オフィスのご紹介

2022年4月18日 「共創」をコンセプトとする新オフィスがスタート

協働のメリットを活かし、働く人の意欲を高めて、イノベーションを促進する環境を実現するため、オフィスを新設しました。プレゼンテーションやペアワーク、チームビルディングなど、様々な活動に適応するようエリア毎に異なるコンセプトで設計しています。社員だけでなく、顧客やパートナーを巻き込み、オープン・イノベーションを推進することで、さらなる高付加価値化を目指します。

オープン・イノベーション エリア



(上) 当社の技術や製品を知ってもらうためのセッションルーム
(下) セッションルームと各会議室を繋ぐオープンラウンジ

フレキシブル・ワークスタイル エリア

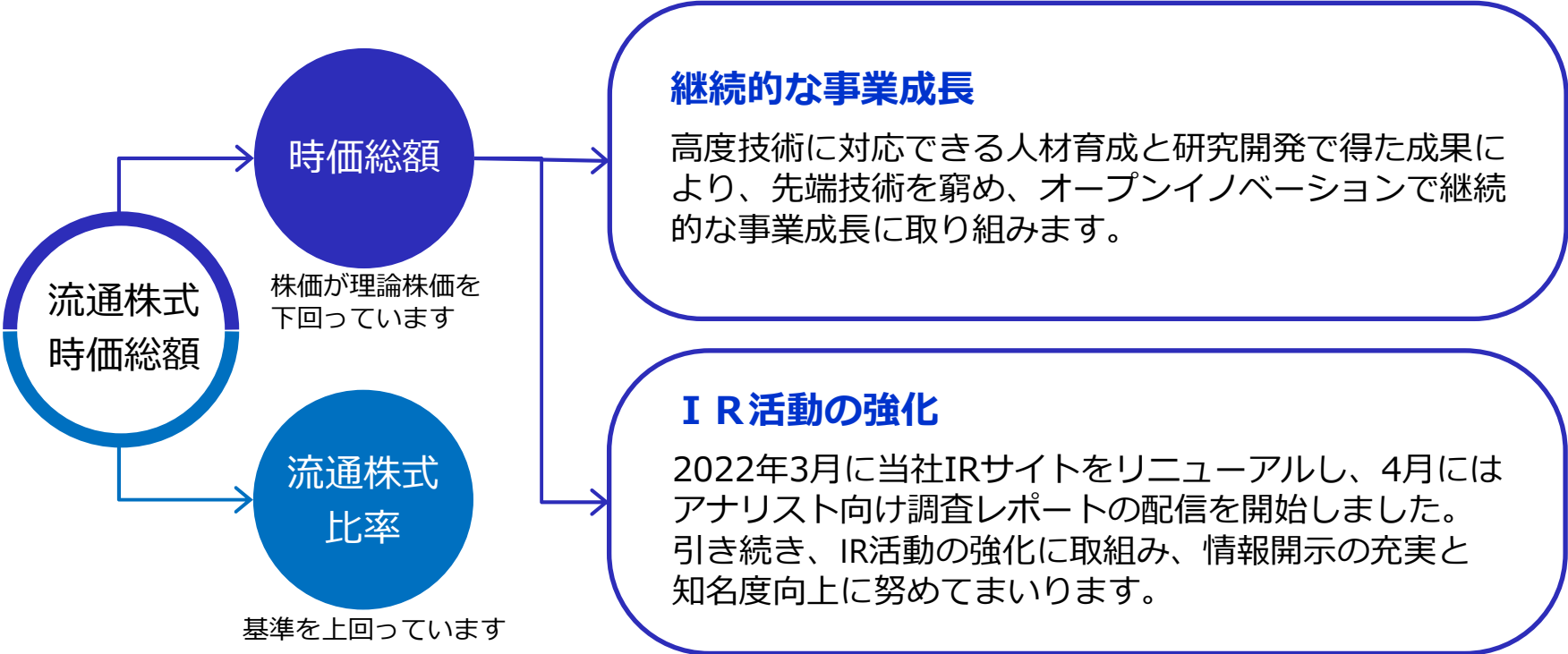


(上) チームビルディングを促進し、生産性を高める多様なワークエリア
(下) 周囲の活気を感じながら議論を深められる、セミオープンのディスカッションスペース

2022年4月25日 当社ニュースリリース https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220422526027/pdfFile.pdf

プライム市場に移行

2022年4月4日、当社は東京証券取引所プライム市場に移行しました。移行基準日（2021年6月30日）において、当社はプライム市場の上場維持基準のうち、流通株式時価総額を充たしていないことから、継続的な事業成長とIR活動の強化による知名度向上で、中長期的な企業価値の向上を目指し、計画期間の2025年3月期までに上場維持基準を充たすための取組みを進めてまいります。



継続的な事業成長

高度技術に対応できる人材育成と研究開発で得た成果により、先端技術を窮め、オープンイノベーションで継続的な事業成長に取り組みます。

IR活動の強化

2022年3月に当社IRサイトをリニューアルし、4月にはアナリスト向け調査レポートの配信を開始しました。引き続き、IR活動の強化に取り組み、情報開示の充実と知名度向上に努めてまいります。

持続可能な社会の実現のために

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としています。
 社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していきます。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

E 環境

セックは2000年12月に環境マネジメントシステム（ISO 14001）の認証を取得しました。
 以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいます。



S 社会

- 研究開発
私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいます。
- 人材育成
プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供しています。
- エンジニア育成
当社のプロ育成ノウハウを学校や企業に提供しています。
- 次世代育成支援
子育てサポート企業として、「くるみん認定」を取得

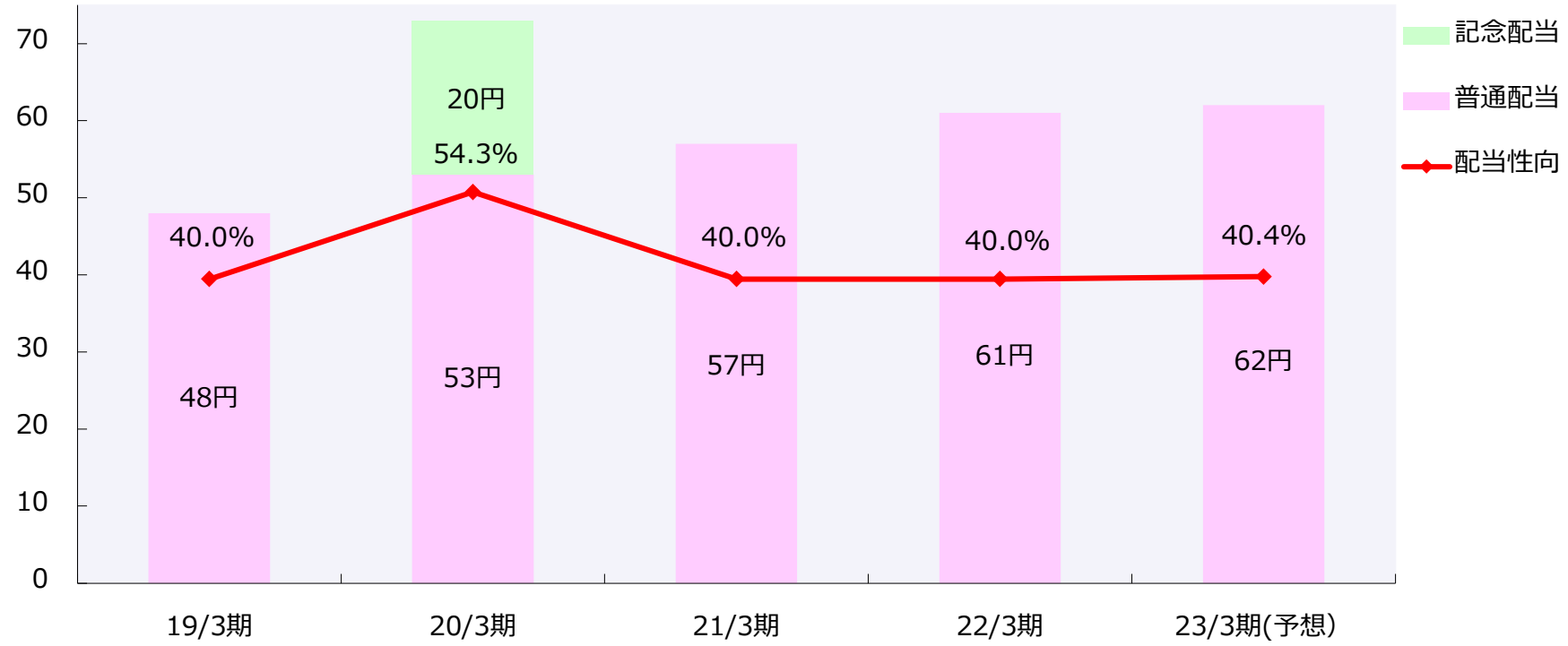
G ガバナンス

- コーポレートガバナンス
審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視しています。
透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいます。
- コンプライアンス
「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有しています。



配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2023年3月期は1株当たり62円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。